

事業報告書

「ぼくたちの地球を守ろう」

第16回小学生・中学生作文コンクール

第10回小学生・中学生ポスターコンクール

第13回アジアこども会議

2006年8月作成

NPO法人地球こどもクラブ

www.c-earth.org

2006年度主催事業
「ぼくたちの地球を守ろう」作文・ポスターコンクール
運営組織図

【主 催】

NPO法人地球こどもクラブ

【後 援】

外務省、文部科学省、環境省、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会、富士河口湖町、富士河口湖町教育委員会、NHK、フジテレビ、テレビ朝日、朝日学生新聞社

【助 成】

財団法人長岡育英会
地球環境基金

【特別協力】

みずほ銀行

【協 力】

全日本空輸(株)

《海外》中国： 北京市教育委員会 对外合作交流処
韓国： 忠清北道 経済通商局 国際通商室
タイ： Ministry of Education
シンガポール： シンガポール大使館/Ministry of Education
フィリピン： Philippines-Japan Friendship Foundation
インドネシア： NPO 法人ホールアース研究所
インド： 外務省アジア太平洋州局南西アジア課

【協 賛】

東京電力(株) (株)キヨー 三井物産(株) (株)日立製作所 (株)東芝 東北電力(株)
中部電力(株) 三菱重工業(株) 関西電力(株) 清水建設(株) 日本原燃(株) 電源開発(株)
石油資源開発(株) (財)凸版印刷三幸会 (株)第一興商 (株)アルビオン ユナイテッド・
メディア(株) 北海道電力(株) 四国電力(株) アオイ産業(株) (株)井田企画 (株)朝日クリエイティブ

「ぼくたちの地球を守ろう」

第16回小学生・中学生作文コンクール

第10回小学生・中学生ポスターコンクール

<2006年度募集ポスター>

◆募集国： 11ヶ国
《日本・中国・韓国・タイ・シンガポール・インド
インドネシア・フィリピン・マレーシア・フィジー・ガラパゴス》



◆募集期間： 2006年1月～
2006年3月31日必着《海外》
5月10日消印有効《国内》

◆募集方法： 全国小・中学校の内1000校選定
全国市町村環境局・図書館の内400ヶ所選定
地方紙はじめ各マスコミ約100社に掲載依頼

◆作品応募状況：

国名		作文部門			ポスター部門			合計
		全体	小学生	中学生	全体	小学生	中学生	
日本		935	33	902	381	174	207	1,316
海外		512			703			1,215
	中国	128			50			178
	韓国	1			—			1
	タイ	3			132			135
	シンガポール	133			306			439
	インド	166			132			298
	インドネシア	61			65			126
	マレーシア	—			1			1
	フィリピン	18			15			33
	ガラパゴス	1			1			2
	フィジー	1			1			2
合計		1,447			1,084			2,531

イベント名： 「ぼくたちの地球を守ろう」

第16回作文コンクール及び第10回ポスターコンクール授賞式

開催日時： 2006年7月25日（火） 午後11:15～12:55

会場： 授賞式（山梨県・甲府市）

主催： NPO法人地球こどもクラブ

後援： 外務省、文部科学省、環境省、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会、富士河口湖町、富士河口湖町教育委員会、NHK、フジテレビ、テレビ朝日、朝日学生新聞社

助成： 財団法人長岡育英会 地球環境基金

協力： 全日空

入賞者： 第16回作文コンクール 合計30名

国内受賞者	11名
海外受賞者	11名
第10回ポスターコンクール入賞者	<u>合計 8名</u>
国内受賞者	1名
海外受賞者	7名

イベントの内容：授賞者への賞状及び記念メダル等の授与

賞及び受賞者数：	高円宮賞	作文	2名	ポスター	2名
	環境大臣賞	作文	2名	ポスター	2名
	優秀賞	作文	2名	ポスター	2名
	地球こどもクラブ賞	作文	2名	ポスター	2名
	審査委員長賞	作文	1名		
	特別賞	作文	13名		

(海外参加者11カ国)

総合計 30名

◆審査委員：	審査委員長	江森 陽弘 (ジャーナリスト・元朝日新聞編集委員)
	審査委員	長沢 光男 (環境ジャーナリスト・元朝日新聞編集委員)
		渋谷 晃太郎 (環境省環境教育推進室長)
		森 ミドリ (音楽家)
		アグネス・チャン (歌手)
		浅井 清恵 (中学校教諭)
		岡崎 友紀 (女優)
		内海 桂子 (漫才協団会長)

4. 作文・ポスターコンクール受賞者

■□■ 作文部門 ■□■

第16回小学生・中学生作文コンクール

高円宮賞

小学生部門

ますもと
舩本

れみ
伶未

「元気の源は生ごみ」 山口県 周防大島町立明新小学校 6年

中学生部門

おかべ
岡部

たつみ
達美

「地球の自然を復活できる日を夢みて」 東京都 千代田区立神田一橋中学校 1年

環境大臣賞

小学生部門

くりはら
栗原

まよ
万誉

「山村じゅく」 福岡県 明治学園小学校 5年

中学生部門

やなぎはら
柳原

ようへい
庸平

「こども達に実体験の環境学習を」 大阪府 大阪教育大学付属平野中学校 3年

優秀賞

小学生部門

なりた
成田

かなこ
佳奈香

「私達の緑」 東京都 白百合学園小学校 6年

中学生部門

さきつ
崎津

まいか
舞香

「少年と出逢って」 大阪府 私立大阪女学院中学校 1年

地球こどもクラブ賞

小学生部門

すずき
鈴木

ひかり
ひかり

「ホテルとカワニナ」 千葉県 いすみ市立東小学校 6年

中学生部門

いちかわ
市川

さとし
哲

「呼びかけだけでなく」 愛知県 名古屋大学教育学部附属中学校 3年

審査委員長賞

中学生部門

くの
久野

あゆみ
歩実

「私にもできること」 静岡県 西遠女子学園中学校 2年

特別賞

日本

さきつ
崎津

ゆうせい
優誠

「サミットに参加して」 兵庫県市立青山小学校 5年

日本

しかだ
鹿田

あおい
葵

「ごみ0の日」の環」 東京都 田園調布学園中等部 3年

中国

ドン
董

イーフェン
一凡

「食べるか、食べないか」 北京私立シロ佳中学校 1年

韓国

リ
李

ジンジュ
鎮州

「信頼が運んでくれるプレゼント」 トクサン中学校 2年

フィリピン

ヴァトリオ・ミエル・C・パンソン 「地球を見せて下さい」 杜・アパド・サント・メリアル中学校 2年

タイ

パンティパー・トーンチーク 「私の美しい庭」 サーティップ・ブーンパムン中学校 1年

シンガポール

ユーリンドラ・ヴァイジャ 「私がしたこと」 セント・マーガレット中学校 2年

インド

アルジュン・クマル 「どうすれば私のきれいな地球を救うことができるのでしょうか」

デリー・パブリックスクール・イーストオブ・カライツル小学校 5年

インドネシア ラニ・ラマティ 「ゴミの有効利用」 第13中学校中学校 2年

ガラパゴス ダニエル・アレハンドロ・チャベス・ベリス 「ガラパゴス、私が住んでいる島」 小学生 2年

ミリア・セバスチャン・ロドリゲス・ルイス 「僕は、僕の青い惑星を愛している」 小学生 3年

フィジー共和国 レイ・ボ・ティウ 「マイカドリ（ダクア）の木」 中学 2年

アレックス・ダリガ 「ガニヴァツ（ハヤブサ）」 中学 1年

第10回小学生・中学生ポスターコンクール

高円宮賞

小学生部門

中国 シ・エンヒ「懸命にもがく」北京市西城区四根柏小学校5年

中学生部門

タイ アップヒスフト・マチトパナム「環境を破壊する危険を封印します」中学校3年

環境大臣賞

小学生部門

シンガポール タン・チャウ・シャン「地球を守ろう」小学校6年

中学生部門

日本 本田しおん「打ち水で 地球の心 風にする」武蔵野市立第1中学校3年

優秀賞

小学生部門

インドネシア ディーデ・アティア「自然の中で育つ」小学校6年

中学生部門

インド スヒナ・アガワール「地球に息をさせてあげよう」中学校3年

地球こどもクラブ賞

小学生部門

フィリピン ハナコ・アミハン・N. ヤブット「煙だらけの町をきれいにする」小学校6年

特別賞

小学生部門

マレーシア チュワ・チン・イー「地球を守ろう」小学校4年

授 賞 式



- 日 時 2006年7月25日(火) 11:15～12:55
- 会 場 山梨県 富士屋ホテル(甲府市)
- 主 催 NPO法人地球子どもクラブ
- 後 援 外務省、文部科学省、環境省、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会、富士河口湖町、富士河口湖町教育委員会、NHK、フジテレビ、テレビ朝日、朝日学生新聞社
- 助 成 財団法人長岡育英会、地球環境基金
- 協 力 全日空

プログラム

高円宮憲仁親王妃久子殿下ご入場

開会宣言く地球子どもクラブ副会長山梨県実行委員会名誉会長 長岡喜法>

主催者代表挨拶く地球子どもクラブ会長 石井吉徳>

高円宮憲仁親王妃久子殿下お言葉

田村義雄 環境省総合環境政策局長ご挨拶

授 賞 式

高円宮賞	作文2名・ポスター2名	高円宮憲仁親王妃久子殿下より表彰
環境大臣賞	作文2名・ポスター2名	環境省田村局長より表彰
優秀賞	作文2名・ポスター2名	石井会長より表彰
地球子どもクラブ賞	作文2名・ポスター1名	//
審査委員長賞	作文1名	江森審査委員長より表彰
特別賞	作文13名・ポスター1名	石井吉徳会長より表彰

江森審査委員長総評

記念撮影

高円宮憲仁親王妃久子殿下ご退席

アジアこども会議



- 日 時 2006年7月25日(火) 14:00~16:35
- 会 場 富士屋ホテル
- 後 援 外務省、文部科学省、環境省、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会、富士河口湖町、富士河口湖町教育委員会、NHK、フジテレビ、テレビ朝日、朝日学生新聞社
- 助 成 財団法人長岡育英会 地球環境基金
- 協 力 全日空
- 会議参加者 コンクール受賞者及び野口健環境学校の子供たち
- イベントの内容 受賞者及、その発表を「こどもアジェンダ21宣言」としてまとめ、環境省総合環境政策局環境政策局長(環境大臣代理)に提出する。
- 会議のテーマ 『富士山から環境を考える身近な環境問題』
- 司会進行 アルピニスト・野口健

プログラム

高円宮妃殿下ご入場

主催者代表挨拶<地球こどもクラブ 田中豊蔵理事>

第13回アジアこども会議

こどもアジェンダ21宣言書とりまとめ・環境省総合環境政策局長へ提出

高円宮妃殿下ご退席

アジアこども会議内容

■ 会議テーマ「富士山から環境を考える身近な環境問題」

今回のアジアこども会議は、アルピニストの野口健さんに会議の司会・進行をお願いしました。

アジアの子供たちが計9つのテーブルに分かれ、意見を出し合い各班ごとにまとめて発表してもらいました。



「A班」

まずゴミを拾うということ。次はゴミを捨てられないようにすること。例えば看板を立てたり、監視員が見回りをすること。あともう一つが、無駄遣いをするのをやめる。いらぬ物は買わない。必要なのか、ほしい物なのかを見極めようということです。

「B班」

みんなで何かを予防しようというアイデアと、それから制限をしようというアイデアに分かれています。予防しようというアイデアには、ゴミ袋を登山する人に配っていかうとか、ゴミ箱の設置場所を増やす、警備員を置いたらどうだろうか、ガイド制度を導入し、登山をする場所で1万円を払って置いて、自分が登山する時に持って行った荷物が減っていたら、1万円が戻ってこない。ゴミを拾って来るなどして持っている荷物が増えていたら、1g10円でお金を追加して1万円を返してあげる。こういうちょっとサービスのものをやろうなど。制限の方では、登山で持っていけるものをあらかじめ決めてしまう。それから、生涯で登れる回数を決める。入山料の話もできました。登山する前に登山者の荷物をチェックする。それで、下りて来た時にもチェックする。あとはゴミを捨てた時の罰金制度というアイデアもありました。



「C班」

大人の人にやってもらいたいこと、自分たち出来ること、あと一緒にやりたいことの三つです。大人の人にやってもらいたいことは、予防策で、見張りをつけるとか防犯カメラをつけてもらうとか、あと車を巡回させるとかゴミを捨てたら罰金制度を設けるなど。それと、粗大ゴミの今のリサイクル料金をもう少し安くするように、業界に働き掛けてもらいたいというのがありました。こどもたちが自分でできるというのが、注意書きのポスターを書く、実際に目の前にあるゴミを拾う。観光地などで、例えば富士山だったら5合目などで呼びかけたり、自分たちの学校でそのことを広めるってことです。大人と一緒にやりたい事は、「NHKでゴミを拾っているところを生中継して放送する。」とか、そういったイベント、偉い人と一緒にゴミをその場で拾うっていうのがありました。ただゴミを捨てないでとかゴミを一緒に拾おうだけじゃなくて、ゴミを捨てたら地球はどうなるか？そこまでメッセージとして伝えたいという意見がありました。



「D班」

ゴミ拾いをしたらポイントが貯まって何か特典があるようにする、現実的にいっぱい拾うとその分のお金がもらえる。それと、近くの売店では環境に優しい物だけを売る。隠しカメラを設置するとか、ゴミ置き場の数を増やすとか、立ち入りできる区域を制限してしまう。そうするとゴミを捨てる場所も少なくなつてあまりゴミを捨てられないのではないかという意見がありました。あとは、各商品に買った人のIDを付ける。それで捨てたら誰が捨てたかばれるようにしちゃうという意見が出ました。

「E班」

ここのテーブルは、フィジーの子とガラパゴスの子がいます、彼ら昨日の夜に日本に着いたので、一緒に富士山の樹海の清掃ができなかったので、彼らが自分たちの国、地域でどんな活動をしてるか話してくれました。まずフィジーにはゴミなんてないよと言っていました。彼らの村では、ゴミを減多に出さないけれど、村で毎週土曜日に、村人全員で清掃活動を行っているそうです。なので村にはゴミがないと言われました。それからガラパゴスの人達は、ゾウガメ友の会という地域のボランティアサークル活動に参加しているそうです。動物に対する意識が非常に強く、動物を守ろうとしている絵をたくさん描いてくれました。一方ガラパゴスではゴミが沢山あると言っており、誰がそのゴミを捨てるのか聞いたら、町の人が捨てることもあるし、もちろん観光客が捨てることもあるそうです。どういうゴミかというと、プラスチック・ビニール袋・空き缶・どこからか流れついたような大きな冷蔵庫もあるそうです。ガラパゴスの周りを廻っているクルーズ船から捨てられるものもあるし、故障した船からたくさんのオイルが流れだして、魚が死んだりとか、船の中にあった生活用品が全部海に沈んでしまったりして、汚染されたそうです。そういった中で、キャンペーンを組んでビーチのゴミ拾いをしたり、ポスターをいろんな場所に貼る活動をしているそうです。



「F班」

私達の班は大きく分けて、一人でもできることと、一人ではできないことと整理をしてみました。まず一人でもできることとして、捨てない・ゴミ拾いを積極的にする・自分がしっかり自覚を持ち、捨てないように出さないようにするというものです。もう一つは、ゴミを出さないようにしたり、どういうゴミの出し方をすればいいかなどを新聞に載せるなどして伝えるということです。あとは罰金制度を導入する。ゴミになる物は作らない。ゴミ箱を増やす。自動販売機をなくす。立ち入り制限をするなどです。

「G班」

このテーブルは、インドとシンガポールの子どもたちが座っているところです。ゴミを捨てさせない規制に関することをみんなで話し合いました。シンガポールではすごくゴミが少ない国で、ゴミが町に捨ててあっても、朝に必ず清掃員がゴミを拾うので、町は毎朝きれいです。なので、ゴミがあまり見あたらないと言っていました。インドの伝統的な素焼きの食器を使えばゴミとして捨てても土に還るそうです。シンガポールの子は、ゴミを捨てた人に対して犯罪者扱いにして、罰金を払わせるようにするなどの意見が特徴的でした。



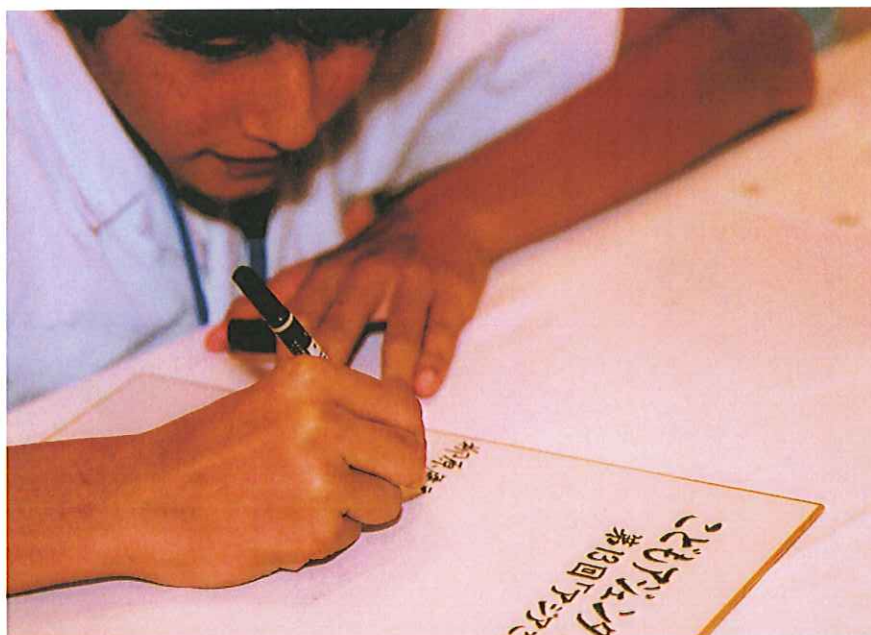
「H班」

アイディアとしては約40個近く出ました。教育の問題とか、看板を立てるとか、みんなで清掃活動するとか、ゴミ箱を作るとか、罰金制度とかです。この中から、もっとこどもが親や周りの人を説得する、それが一番いいのではないかと。それと、ゴミが出た後どうなるかというそういうことの教育をするべきです。それから、冷蔵庫が夜捨てられているということから、見つけたら通報するなどです。

「I班」

私達のテーブルは韓国、タイ、インドネシアのこども達があります。子供の頃からリサイクル・リユースに関する教育が大事だと言う意見が出ました。特徴的なのを三つほど紹介します、まずインドネシアでは今までゴミをそのまま埋めていたそうです。それを燃やして捨てるようにすれば、少なくなるのではということで、今そうしてるそうです。それから、ゴミ拾いを皆さんも昨日したと思うんですけど、ただゴミを拾うのではなく、イベントを主催して学校や自治体関係なく、ゴミ拾いを競争して商品や賞金が出るようにしたら、みんな頑張ってゴミを拾うのではないかと意見もありました。それから、同じくゴミ拾いに関する事で、古着で作ったカバンや使い古しのバッグをゴミかばんとして持って、ゴミをいつでも拾えるようにしたらいいのではないかとアイディアが出ました。

こどもアジェンダ 21 宣言まとめ&署名



ゴミになるようなものは、なるべく使わないように心がけ、まずは自分たちの身近な所からゴミを無くして行こうとの決意を込めて今年の「こどもアジェンダ21宣言書」が完成いたしました。

こどもアジェンダ 21 宣言書

【私達は行動することによってゴミのない地球を目指します。】



代表して日本の舛本さんと中国のシェンヒさんが、田村義雄 環境省総合環境政策局長に宣言書を手渡しました。

懇 親 会



●日 時 2006年7月25日(火) 17:15～19:30

●会 場 富士ビューホテル (山梨県・富士河口湖町)

プログラム

石井会長、他理事懇親会場へ

高円宮妃殿下 懇親会会場へご案内

挨拶 <井田専務理事>

乾 杯 <内海桂子理事>

ご 歓 談

高円宮賞作文朗読 (小学生 舩本伶未/中学生 岡部達美)

閉会の辞

高円宮妃殿下ご退席 控室へご案内

閉会・解散

富士山裾野の清掃



●日 時	2006年7月24日(月)			
●清掃場所	富士山裾野			
●参加者	国内入賞者	12名	海外入賞者	14名
	海外引率者	8名	通訳者	7名
	野口健環境学校生徒	22名	関係者スタッフ	12名
	アルピニスト・野口健			

受賞者、引率者、通訳者と野口健環境学校生徒が富士山裾野にて、不法投棄されたゴミを清掃しました。海外の子供たちは、こんなに美しい山の麓にどうして冷蔵庫や古タイヤが捨ててあるのかと疑問を感じていました。また、日本の入賞者は、富士山のゴミの話は聞いていたが想像以上に酷いと悲しんでいました。みんなで頑張った結果あっという間に2トントラック一杯になりました。



環 境 視 察



●日 時	2006年7月26日(水)			
●見学場所	山梨県環境科学研究所内			
●参加者	国内入賞者	12名	海外入賞者	14名
	海外引率者	10名	通訳者	7名
	海外入賞者家族	4名		

山梨県環境科学研究所の職員の方に敷地内にある富士の樹海を1時間程案内してもらい、厚さ数センチしかない土の上に根を下ろす大木を見て、子供たちは植物の生命力の強さに感心していました。

生体観察園中庭にて集合写真



地球こどもクラブ2006植樹祭



●日 時	2006年7月26日(水)			
●参加者	国内入賞者	12名	海外入賞者	14名
	海外引率者	10名	通訳者	7名
	国内・海外入賞者家族	24名	一般参加者	約20人
	ボーイスカウト	8名		

日本のシンボルであり、国民の財産である富士山の世界遺産登録を目指し、高円宮久子殿下をお迎えして河口湖畔にて植樹祭を行いました。
最後に入賞者をはじめ、植樹祭に参加者した全員の名前の入ったネームプレートを立てると、子供たちは早速自然を守る活動に参加出来たと大変喜んでいました。

地球こどもクラブ2006植樹祭募金実績報告

募金合計 104,197 円

地球こどもクラブ2006 in 山梨植樹祭募金活動ではたくさんの方々のご協力をいただきました。

植樹祭苗木及び、記念プレート費用に126,000円かかり、寄せられた募金すべてをこちらの費用に企てました。

募金の明細は以下の通りとなりました。

種 別	金 額
イベント募金 (エコライフフェア)	17,754円
イベント募金 (甲府富士屋ホテル・富士ビューホテル・地球 こどもクラブ環境コンサート)	62,443円
法人参加費	10,000円
個人参加費	14,000円
募金合計	104,197円

今回の募金にご支援いただいた皆様の善意に心から感謝を申し上げます。

地球こどもクラブ環境コンサート



- 日 時 2006年7月26日(水)
- 入場料 無 料
- 見学場所 河口湖ステラシアター
- 出演者 小椋桂、由紀さおり、江森陽弘、内海桂子、森ミドリ、岡崎友紀、東てるみ
- 参加者

国内入賞者	12名	海外入賞者	14名
海外引率者	10名	通訳者	7名
国内・海外入賞者家族	24名	一般参加者	約800人

高円宮妃殿下ご臨席のもと「富士山の世界文化遺産登録を目指して」をテーマに、東てるみ理事、江森陽弘理事の司会で小椋桂さん、由紀さおり理事、岡崎友紀理事は歌を、そして森ミドリ理事はチェレスタ、内海桂子理事は漫才でコンサートは盛り上がりました。

オープニングでは、小椋桂さん作曲・作詞の「地球こどもクラブ賛歌」が披露された。

授賞式他イベントご出席者

高円宮憲仁親王妃久子殿下（コンクール名誉総裁）

田村義雄 環境省総合環境政策局長

山本栄彦 山梨県知事

宮島 雅展 甲府市長

石井 吉徳	地球こどもクラブ会長	東京大学名誉教授
長岡 喜法	〃 副会長	財団法人長岡育英会理事長
井田 敏夫	〃 専務理事	株式会社井田企画 社長
江森 陽弘	〃 理事 審査委員長	元朝日新聞編集委員
長沢 光男	〃 〃 審査委員	環境ジャーナリスト
森 ミドリ	〃 〃 〃	音楽家
内海 桂子	〃 〃 〃	社団法人漫才協会
田中 豊蔵	〃 理事	株式会社朝日クリエイティブ 会長 ／元朝日新聞論説主幹
東てる美	〃 〃	女優

（協賛企業・その他）

山西 敏一	東京電力(株)
中野 龍男	(株)パディジャパン社長
山川 寅雄	(株)みずほ銀行日本橋支店長
西田 眞	(株)関電工 常務取締役
角田 智重	甲府市教育長
数野 強	元山梨県教育長
坂本 正義	長岡育英会専務理事
関野 忠史	長岡育英会常務理事
長岡 眞一	長岡育英会評議員
富樫 寛次	長岡育英会理事
荒木 孝夫	長岡育英会評議員
太田 則利	長岡育英会監事
雨宮 一夫	長岡育英会評議員
神田 茂子	長岡育英会

国内入賞者	12名	海外入賞者	18名
海外引率者	10名	通訳者	9名
入賞者家族	24名	マスコミ関係者	若干名